



なきごえ



1988

5

大阪市
天王寺動物園協会

岡安直比



仏教と輪廻転生の世界で私の前世をのぞいたら、きっとアフリカ大陸のどこかでウロウロしているに違いない。その時の姿格好までは想像がつかないが、願わくはライオンかサイ

か、存在感のある巨獣でありたいものだ。テレビで「野生の王国」や「すばらしい世界旅行」を見てみると、行ったこともないアフリカのサバンナに郷愁をおぼえ、こんな感慨にふけるのである。

昔から動物、特に大型の哺乳類が好きで、仕事をするなら動物園勤めか獣医か、彼らに接することができるものを選びたいと思っていた。幸運にもその希望がアフリカへの夢と結びつき、サル学者という道に私を導いてくれた。学者といっても世間一般の堅いイメージとはほど遠く、普段は双眼鏡とノートを手には地下足袋をはいて、ニホンザルの後を追いかけている。

私の選んだ調査地は、鹿児島県の屋久島だ。林道沿いにサルの群れが分布する島の西部の調査地へは、北西部にある永田という集落から約10kmの道のりを毎朝50ccの黒塗りカブバイクで通う。集落には通称サル小屋と呼ばれる調査小屋があり（別にサルを飼っている訳ではない）、研究者は自炊しながらそこで共同生活をする。小屋は6畳に4畳半の台所、それに五衛門バスとトイレ付きで、10年前、初期の研究者達が林道沿いの橋の下でテント生活をしていたこ

なぎごえ5月号もくじ

動物と私2
“ホッキョクグマの赤ちゃん、お目見え” 3
動物園グラフ・動物園日記 4・5
日本におけるホッキョクグマの繁殖状況 6・7
ホッキョクグマの繁殖 8・9
ケンちゃんの好きやねん動物園 ⑦ 10
動物園ニュース 11

とを考えると、随分グレードアップしたものだ。私も多い年には半年以上、サル小屋のお世話になった。

調査対象の群れは餌付けされていないため、険しい照葉樹の森の中を、木の実や葉を食べながら1日動き回る。1ヶ月ぐらい朝から夕方まで群れについて歩いていると、20~30頭いるサルの顔一つひとつが区別できるようになってくる。そこで各個体に名前をつけ（継承されている場合は先輩から教えてもらう）、誰がどうしたと野帳に書きつけていくのである。サルを追いつつ、木の根づたいに岩を登り斜面を滑りおりていると、ちょっとしたフィールドアスレチック気分が爽快だ。その中で集めたデータが京都で論文を書く際の元手になるのだが、そんな事とは知らぬ我が親は、いい年をしてまだお転婆が抜けないと呆れ返っている。

確かに体力勝負のしんどい面もある。加えてサル達から得た彼らの社会のイメージを、論文として書かなければ認められない大変さもある。それでもこの仕事に魅かれるのは、サルと屋久島に私が惚れ込んでしまったせいだろう。海に沈む夕陽を背に黄金色に輝く彼らのシルエットは美しいの一言で、思わず見とれてしまう。それと共に、自分の存在など無に等しい大自然の山ふところに抱かれた安心感が、私をなごませるのかもしれない。

ところでこの夏、“前世からの憧れ”のアフリカ大陸と動物達にいよいよ会いに行けそうだ。大学院での研究の一環として、ザイルのジャングルヘビグミーチンパンジーの調査に行く予定が立ったのである。何ヶ月も先の話で、まだ確定してもないのに、今からソワソワ落ち着かない。まるで、長年片想いだった人と初めて会う約束をしたような心境で、出発を心待ちにしている。

(京都大学・理学部・動物学教室)

表紙の写真説明
“アオハシインコ”
(Cyanoramphus novaezelandiae)
ニュージーランドに分布する小形のインコ。
このインコは野生での生息数が減少しており、
国際的に保護されています。当園には昭和60年
にニュージーランドから来園しました。
(撮影：榊原 安昭)



“ホッキョクグマの赤ちゃん、お目見え”

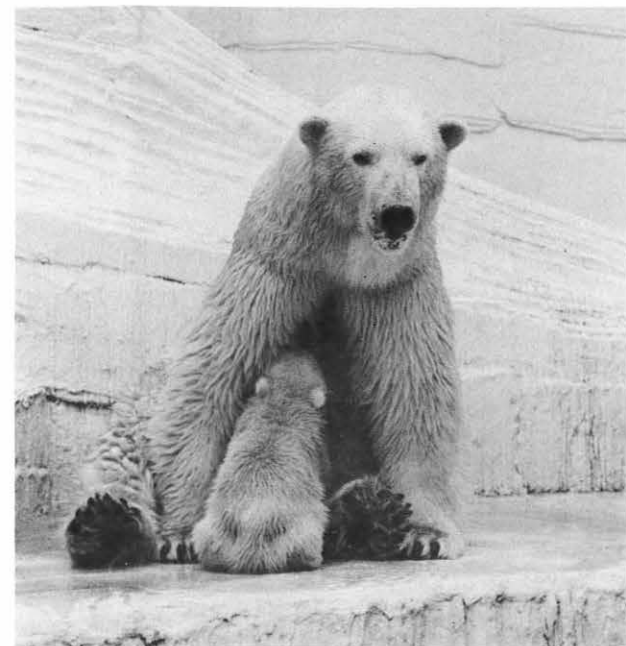
昨年11月16日に生まれたホッキョクグマの赤ちゃん(メス)は、生後116日の3月11日からお母さんと一緒に一般公開されました。まだプールに飛びこむ様子を見せませんが、放飼場を元気一杯に駆けまわっています。(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

“本州初のホッキョクグマの赤ちゃん”

ホッキョクグマの赤ちゃんは順調に成長し、3月11日から一般公開されました。その可愛い仕草に入園客の人気はウナギ昇りです。今月は赤ちゃんの一日をグラフにまとめてみました。(撮影：大川 光雄)

みつけた！かくれんぼしてもお母さんにはすぐ見つっちゃうなあ。



お水はまだチョッピリこわいわ、わたし。

ムニュー、ムニュー。やっぱりお母さんのオッパイが一番。

2・3月の動物園日記

- 2 / 27. アオサギが抱卵を始めました。
- 2 / 28. シシオザルのメス“ノエル”の出産が近いので、栄養剤を与え始めました。
- 3 / 2. シュモクドリが交尾しました。コブハクチョウが産卵しました。
- 3 / 4. ブラックバックが1頭生まれました。
- 3 / 6. ボランティアがスポットガイドでウサギの触察を行ないました。
- 3 / 7. オランウータンのメス“ウータン”の染色体検査を行ないました。
- 3 / 8. オランウータンのオス“ブル”、“サブ”の

- 染色体検査を行いました。
- 3 / 10. バードケージ“鳥の楽園”の鳥の羽数をカウントしました。
- 3 / 11. ホッキョクグマの赤ちゃんの展示を始めました。タスマニアデビルのオス“ダイスケ”の眼の検査を行ないました。チンパンジー“リッキー”(5歳)の虫歯を治療しました。
- 3 / 13. コアラ舎プロジェクト会議を行ないました。ダマシカのメスがオスに角で突かれ裂傷を負ったので捕獲し治療しました。
- 3 / 14. セグロカモメを1羽保護しました。



お母さん、あのネ……お母さんと内緒のお話。



お母さん、あれナァーニ？



これもなかなかおいしいね、お母さん。



お母さん、起きてもっと遊んでよ。

- 3 / 15. カナダガンが左翼を骨折したので治療しました。
- 3 / 16. アジアゾウの“ハル子”が右の前足をひきずって歩くため、治療しました。近畿地区動物園獣医師勉強会を開きました。中国済南市園林局長・郭元祥氏と同市動物園長張継忠氏が来園見学されました。
- 3 / 19. シシオザルの子が生まれました。昨年生まれのカリフォルニアアシカの体重測定を行ないました。ヒョウが交尾しました。
- 3 / 20. 第35回動物のお話とスライドの会「動物クイズ」を開催しました。

- 3 / 21. ヒグマが未消化の血便を排泄したので、検査後、治療を始めました。
- 3 / 22. バーバリシープが2頭生まれましたが、虚弱のため1頭はすぐ死亡、もう1頭は人工哺育で育てることにしました。
- 3 / 23. バードケージ“鳥の楽園”にコンクリート製樹洞を巣作り用に6個増設しました。
- 3 / 24. シシオザルの一般公開を始めました。トビとサシバを各々1羽ずつ保護しました。オオサイチョウが交尾しました。
- 3 / 25. タイリクモモンガが2頭生まれているのを確認しました。
- 3 / 27. シシオザルの子がオスと判明しました。

小菅正夫

ホッキョクグマが日本の動物園に初めて入ったのが1878年3月4日のことで、北海道開拓使からメス1頭が、まだ開園する前の東京都上野動物園に入園しました。以来、1986年までの間に少なくとも120頭以上のホッキョクグマが日本の動物園にやってきました。それらの中で繁殖に関与した個体が39頭あり、繁殖した正確な記録は1986年までに53回ありますが、日本生まれのホッキョクグマは残念ながら、たったの7頭しかいませんでした。それらの記録を中心にホッキョクグマの繁殖について書いてみました。

§ 戦前の記録

冒頭で開園前の記録について触れましたが、実際の飼育記録については開園後の分しか入れておりません。戦前はホッキョクグマを飼育する園館も少なく4園で19頭が飼育されていました。最も早く飼育を始めたのは、東京都上野動物園で1902年(明治35年)に1つがいを入園させております。

さて、日本初のホッキョクグマの出産ですが、1917年(大正6年)11月5日、東京都上野動物園でオス、メスの双子が産まれております。父親は1902年に入園したオスで母親は1907年に入園したメスでした。残念ながら生まれた仔は2頭とも翌日には死亡してしまいました。翌年にも同じペアでオス1頭を出産しておりますが、やはり2日目に死亡しております。戦前の出産記録はこの上野動物園のものしかありません。

余談になりますが、終戦が近くなったころ動物園の猛獣やゾウなどが逃げ出したら危険だということで殺されたことは皆さんよくご存知のことと思いますが、ホッキョクグマもその対象となり処分されてしまいました。それで終戦時には1頭のホッキョクグマも日本にはいなくなってしまうのです。

§ 戦後の記録—はじめての繁殖成功

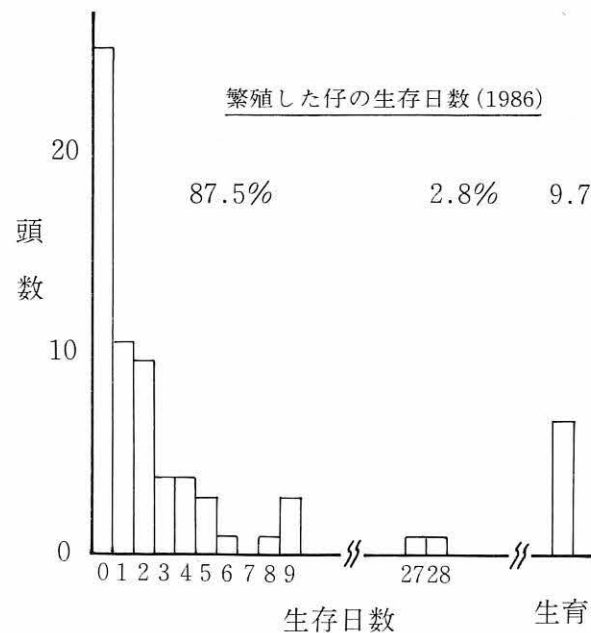
戦後最初にホッキョクグマを飼育した動物園は名古屋市東山動物園で1951年(昭和26年)8月6日にメス1頭が入園しております。同年上野動物園にメス1頭が入園し、これを皮切りに翌1952年3頭、1953年2頭と毎年輸入され、1986年には29園でオス32頭メス29頭の計61頭が飼育されております。戦後次々に飼育を開始した動物園では1958年の上野動物園をはじめ、1963年みさき公園自然動物園、1965年横浜市野毛山動物園と東山動物園など相次いで出産がみられましたが、みな数日のうちに死亡してしまい、ホッキョクグマの繁殖はなかなか成功しませんでした。しかし、1974年11月28日旭川市旭山動物園で生まれたオスの仔が無事母親に育てられ日本で初めて繁殖に成功しました。ホッキョクグマをペアで飼育するようになってから実に72年目でようやく繁殖に成功したのです。その後、1986年までに旭山動物園で4頭、札幌市円山動物園と釧路市動物園でそれぞ



日本初のホッキョクグマの赤ちゃん (北海道新聞社提供)

繁殖に成功している動物園(1987)

動物園名	オス	メス
旭川市旭山動物園	4	1
釧路市動物園	1	
札幌市円山動物園	1	
大阪市天王寺動物園		1
合計	4園	6



れ1頭ずつ、計7頭が日本で産まれ育てられております。そして1978年には8頭目が大阪市天王寺動物園で誕生しました。

§ 繁殖の難しさ

ホッキョクグマの繁殖の難しさは、仔を育てさせ

る難しさといってもいいでしょう。ホッキョクグマの出産は意外と多く、18園で72頭が生まれております。そのうち7頭しか生育していませんから成功率は9.7%でしかありません。死亡した仔のうち2日間以内での死亡率が65.3%もあり、9日間以内ですと85.9%にも達します。ほとんどが生まれて間もなく死亡しており、母親が落ち着いて仔を育てられる環境を用意してやるのがなかなか難しいということでしょう。ホッキョクグマは体に似合わないへん神経質で、特に聞き慣れない音にしては過敏に反応してしまうようです。もちろん母親の性格も大きく影響していると考えられます。

§ 野生状態と動物園との違い

ホッキョクグマは名前の示す通り北極圏を中心に生息しているわけですが、北極圏の冬は厳しく、外気温は-30℃程度に下がるのは普通です。母親は日本にすむヒグマやニホングマのように、巣穴の中で出産し育児をするわけですが、大きなホッキョクグマの産室は意外と小さく、平均で長さ165cm、幅140cm、高さ80cmですから母グマが体を丸めて入れる程度の大きさです。

一方、動物園ではホッキョクグマをそんな寒い状態の中で飼育することはできません。それで、繁殖が成功しないのは「暖かすぎるからだ」との考えがありました。現に繁殖の成功している動物園は北海道の三園だけでした。また産室についても、ほとんどの動物園では、寝室と産室の区別がなく、私の調べた動物園での寝室の大きさは平均で445cm×275cm、高さ235cmとずいぶん大きな部屋がホッキョクグマに用意されておりました。それともう一つ、音の問題があります。先ほども述べましたが聞き慣れない音に対しては極めて神経質で、100m以上も離れたところで水道工事をしただけで落ち着かなくなったということもあります。人の大勢集まる動物園と生命の鼓動さえ聞こえない北極圏の巣穴の中との一番の違いは、この「音の環境」かも知れません。

野生状態と動物園の環境の違いのほかに、生まれてくる仔の数がどういふわけか少ないようです。Wrangel島での65例を調査した報告書(Uspenski & Kistchinski)によりますと双子が66.2%と多めで、平均産仔数は1.69となっております。ところが、日本での53例では一仔が66.0%で、平均産仔数は1.36とずいぶん少ないのです。この違いがどこからくるものかわかりません。

産仔数の比較

産仔数	1	2	3	平均
Wrangel 島	21	43	1	1.69
%	32.3	66.2	1.5	
日本の動物園	35	17	1	1.36
%	66.0	32.1	1.9	

§ 繁殖への取り組み

広すぎる産室は母親が落ちつかないのかうまく繁

殖しないようです。それで、寝室の中に木製の産室を用意したり、通路をつくってやったり、地下に小さな産室をつくってうまく繁殖させている動物園もあります。また、温度の問題ですが寒い地方の動物園だから寒くしなければならぬ、とつい考えがちですが旭山動物園では産室に床暖房を設備し、出産時に使用しています。『繁殖の成功に暖房は欠かせない』という研究者もいるくらいです。いくら外気温が、-30℃でも小さな巣穴の中は十分暖かいだろうと考えるからです。

一方、どうしても仔を育てない母親には、人工哺育も試みています。公式な記録としては帯広動物園の27日間、釧路市動物園の28日間の生存が報告されております。帯広動物園ではこの失敗の原因がγ-グロブリンの欠陥にあるとし、ホッキョクグマのγ-グロブリン精製を行いました。血液を提供したのは1974年旭山動物園生まれのオスで、この精製γ-グロブリンは1980年に帯広動物園と釧路市動物園で使用されましたが、結果は失敗に終わってしまいました。しかし、この様な研究が実を結ぶ日が必ずくるものと信じています。

§ “飼育下3代目”の誕生

昨年11月16日大阪市天王寺動物園で1頭のメスの



1979年に旭山動物園で誕生した双子。左の個体が天王寺にやってきました。

仔が生まれ無事生育し、3月11日一般公開されました。実はこの仔の父親は1979年12月3日旭山動物園生まれ、母親は同年11月19日アメリカのタルサ動物園生まれなのです。ですから日本で初めて“飼育下生まれの両親”の間に生まれた“飼育下3代目”の繁殖成功となったわけです。また、ホッキョクグマの繁殖は北海道のような寒い地方でなければだめだと思われていたことが、暑い大阪でも可能であることも証明しました。今後本州以南の動物園でもどんどんホッキョクグマが繁殖できる希望がでてきたわけです。

これからも4代目、5代目と繁殖を続け動物園のホッキョクグマがすべて動物園生まれの個体となる日がくることを願っています。

(旭川市旭山動物園飼育係長・ホッキョクグマ国内血統登録担当者)

ホッキョクグマの繁殖

なきごえ24(5).1988

§ はじめに

昭和61年11月10日、北海道旭山動物園生れのユキオ、(オス)と、米国タルサ動物園生れのユキコ(メス)の間に当園で初めて、3頭の赤ちゃんが誕生しました。しかし、ユキコが初産でしたし、出産準備が完全に整っていなかったため、残念なことに翌日までにすべて死亡してしまいました。そして、翌、昭和62年4月23日から5月3日までユキオとユキコの間で交尾が観察されましたので、今回は何とか繁殖に成功させたいと思い、9月中旬にホッキョクグマ繁殖プロジェクトチームを作りました。

§ 出産準備

10月の始め頃から一昨年同様、ユキコの採食量が減り始め、馬肉、ソーセージ、アジなどを食べ残す日が多くなってきました。そこで、出産が近付いたものと考え、10月21日に産室に巣材としてワラを切って、床にひいてやり、また、母親がおちついて出産できる様に室内を暗くするため、オリの鉄格子にベニヤ板をはめ込みました。そして、産室内に閉じ込めてからも中の様子を観察できるようにマイクを設置し、万全の準備を整えて出産を待ちました。

初めユキコは産室内の変化を警戒して様子をうかがい、産室には入ってくれませんでした。徐々に慣れてきた様子でしたので、10月22日に母親を産室内に閉じ込め、産室に出入り出来るようにしてやりました。10月31日頃からユキコが産室内に餌を持ち込む行動が見られたので、11月2日、産室内に閉じ込め、父親の方は屋外放飼場に出したままにし、ホッキョクグマ舎内への収容を中止しました。また、係員も動物舎内への立入りを中止しました。従って、これ以後母親は飲水だけの絶食状態で出産を待ちました。普通、野生の場合では4ヶ月間絶食をされるといわれていますが、動物園の場合、野生と違うので、どうなることかと心配でした。しかし、産室に閉じ込めてからは案外、落ち着いた様子で、スピーカーからはイビキをかく音まで聞えてきました。

閉じ込めてから2週間目の11月15日に出産の兆候と思われる行動が、マイクを通して、聞こえて来ました。それはワラを動かしたり、シャッターに体をこすりつけたり、苦しそうなうなり声をあげるなどの行動です。出産は間近だ、と思いました。

§ 出産

11月16日早朝、マイクを通じて「ニャー、ニャー」という、ネコのような赤ちゃんの鳴き声を確認しました。母親も2回目の出産のせいか落ち着いている様子でした。しかし、ホッキョクグマ舎の横には高速道路と電車が通っています。そして、電車が通り過ぎるたびに赤ちゃんがさかんに鳴きます。また、母親のうなり声もマイクを通して聞こえて来ます。出産直後3日間位は電車の音などに大変敏感で、母親が動く度に、子供を押しつぶさないだろうか、と心配でした。

生後3日目の11月18日、にオッパイに吸いつくような音が聞こえ、哺乳しているものと判断しました。

以後、毎日マイクを通じての観察を続けました。生後10日間はマイクのスイッチを入れるたびにニャ



まだまだ甘えん坊です。

ーニャーという高い声や、ウォーウォーという低いうなり声を日に教十回聞くことが出来ました。しかし、10日目以後は鳴く回数も少なくなり、1時間から2時間も何の物音も聞こえない時もありました。11月26日は朝から何の声も聞こえず、何回もスピーカーの前に座りましたが、夕方5時すぎにやっと、母親のイビキとシャッターをひっかく音が聞こえてきただけで子供の鳴く声は全く聞こえて来ませんでした。大変不安でしたが、翌日出勤してマイクのスイッチを入れると子供の低い鳴き声や、やや力強い声が聞こえてきたのでほっとしました。このようにマイクを通じての観察だけに心配と不安の連続でした。

日を追うに従って鳴く回数は徐々に減り、鳴き声も高い声から低いウォーウォーといううなり声や、太いギャオ、ギャオという鳴き声に徐々に変わってきました。この間オスは屋外放飼場に出し放しで、エサも外で与えていました。時折メスの産室から聞き慣れない声がかきこえるせいかメスの産室のシャッターをガタガタさせたり、うなり声をあげたりして、メスと呼んだりする行動もよく見られました。

生後59日目の1月14日に母親の給餌と子供の確認のためにホッキョクグマ舎に入りました。母親を閉じ込めてから74日目の対面でした。

母親の状態はどうか、やつれていないか、仔グマは何頭いるのか、など様々な考えが頭の中に浮びます。午後1時10分、舎内に入りました。その時、エサとしてパン6ヶ、リンゴ3ヶ、白菜1ヶを持って入りました。足音とニオイで私が近付いて来たのが分ったのか、母親はしきりにフーフーと云う声を出し、子供もそれにつられて鳴く声の中からきこえてきました。エサ投入口に取り付けてある40cm角のコンパネ板を取りはずして中を観察できる様になりました。予想していたような母親のやつれや体の汚れは見られず、案外落ち着いていました。母親が手前まで寄ってきたのでパン1ヶを与えると、その場で食べてくれました。その時、奥から子供が鳴くと母親は後ずさりしながら奥にひっこんでしまいました。さらにパン1ヶとリンゴ2ヶを産室内に置いて退室し、その日は残念ながら赤ちゃんの姿を確認することは出来ませんでした。

翌1月15日朝、母親の給餌のため、午前10時50分に入室しパン、リンゴ、アジ、白菜などを与えると

なきごえ24(5).1988

よく食べてくれました。母親の食いつき状態などを観察していると、11時10分に奥で何か動く物が見え、よく目を凝らしてみると、そこには仔グマの姿があったのです。仔グマはすでにネコぐらゐの大きさに成長しており、まっ白な毛に包まれた姿はまるでスイグルミのようでした。ふらつきながら歩く姿を確認し、私は「やった」と心の中で大きく叫びました。確認できた仔グマは、1頭だけでした。母親はエサを食べ終ると、仔グマを踏みつけない様に器用に前足を使って仔グマを奥につれて行き、哺乳しはじめました。生後61日目の、この仔グマとの初の対面の時間は約3分間でした。

その後、毎日母親の給餌と仔グマの観察のために一日2回入室しました。母親も大変落ち着いており、エサを与えると手前まで寄ってきますが、奥で仔グマが鳴くと前足でエサを奥に持って行き、仔グマに寄り添いながら食べる行動もよく見られました。仔グマは時々、産室の奥から顔を出すだけで、手前には近寄ってこようともしませんでした。

生後64日目には足元はまだしっかりしていないものの母親の足にジャレついている姿も見られました。普通、哺乳している時に近寄ると動物は興奮するものですが、この母親はそ知らぬ顔で哺乳を続けていました。

生後69日目、産室の奥から母親の前足にかくれな



お母さんの手枕でお昼寝です。

がら、一緒に手前まで近寄ってき、初めて仔グマをまのあたりに見ることができました。足元はまだしっかりしていず、大きさもネコより少し大きいぐらいでした。母親も動くたびに仔グマに注意をはらっている様子で、その姿をみていると母親の母性愛の強さを感じられました。生後71日目には仔グマはエサに興味を示し始め、パン、ソーセージなどにジャレついて、遊んでいる姿が見られましたが、食べようとはせずおもちゃを与えられた子供のように足で踏んだりして遊んでいました。そして、かなり活発に動き回るようになり、エサ投入口のスキマから足を出すようになり、ヤンチャぶりを発揮するようになりました。

生後79日目に産室と産室の境いのシャッターを開けて産室に親子を移動させ、産室の敷きワラを取り替えました。産室の中に入ると母親のエサの食べ残しとか、排尿、排便でワラは相当汚れていましたが、

仔グマの体はまっ白のまま、とても不思議でした。新しい敷きワラを入れると仔グマは前足でワラを動かしたり、体をこすりつけたりする行動を見せました。

日を追うにつれ、仔グマは大きくなり、体長も約40から50cmくらいに成長しました。生後86日目ぐらゐから、白菜、パン、ソーセージなどを細かくして与えると、少量ずつ食べ始めました。しかし、まだ母乳が中心です。

生後99日目に仔グマは産室にあるプールの中に入って(水深1cm)水遊びをする様になり、エサもアジ、馬肉を少量食べるようになりました。この頃から、母親の行動に興味を示すようになり、母親と同じ仕草をするようになりました。前足でエサをひきずったり、カベに体をこすりつけたりするようになり、母親が馬肉を前足でおさえ、引きちぎって食べると仔グマも同じように前足でおさえ、引きちぎろうとするのですけれど、なかなか引きちぎれず、あきらめる様子も見られませんでした。

3月3日、生後109日目に父親のユキオが生れ育った、北海道の旭山動物園から小菅飼育係長が来園され、仔グマの性別を見ていただきましたが、メスと判りました。

生後117日目に一般公開のため母子を放飼場に出しました。母親は141日ぶりの運動場なのですぐ出ましたが、仔グマは生まれて初めて見る広い運動場と周りの雰囲気にはびっくりしたのか、すぐには外に出ようとしませんでした。しかし、母親がククン鳴いて仔グマを呼び、仔グマは母親に付き添われ、おそろおそろ、運動場に出てきました。時折「グアグア」と鳴き叫んで落ち着かない様子でしたが時間がたつにつれだんだん落ち着いてきたのか母親にじゃれついたりして遊び始めました。母親はプールの中に入り、仔グマをプールの中に誘いましたが、仔グマは水が怖いのか、鳴きながら母親を呼ぶ光景がみられました。

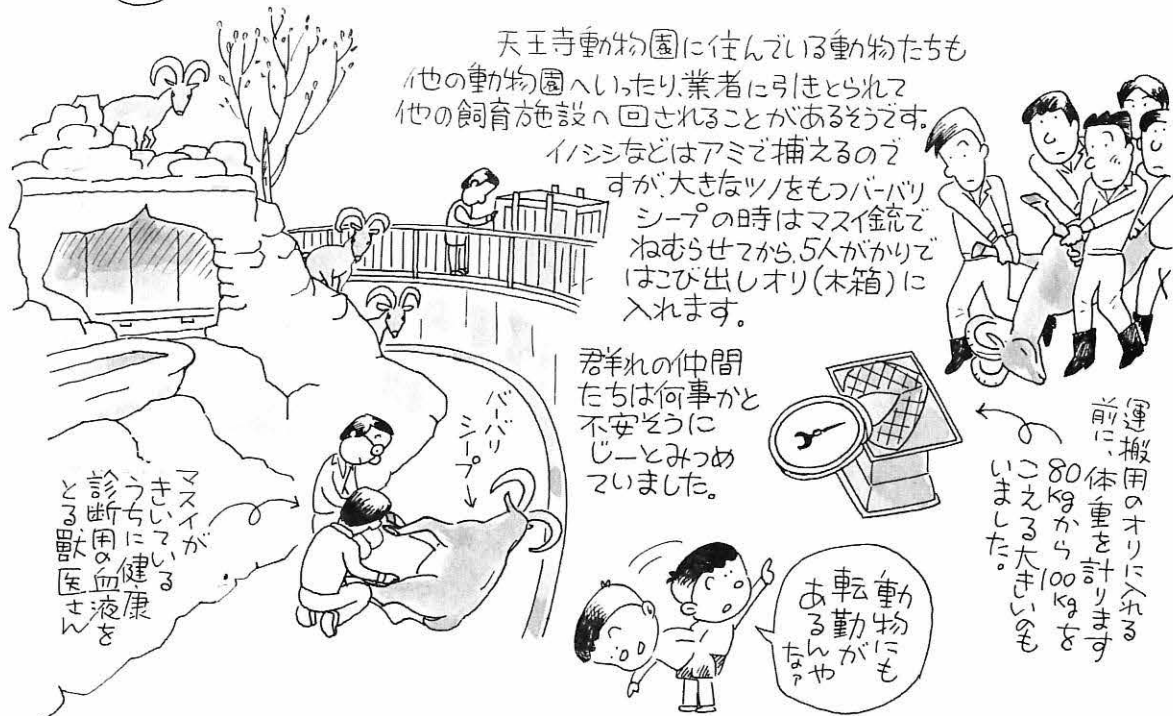
この日は一日中、仔グマは母親からピッタリと離れずお乳を飲むばかりでした。以後毎日母仔を運動場に出しています。仔グマも運動場に慣れたのか、母親から少し離れて走り回って遊んでいます。母親も毎日プールに飛び込み満足そうに泳いでいますが、仔グマはまだ水が怖いのか、プールの中に入って泳ごうともしません。今後、母仔ともそろってプールの中で泳ぐ姿が楽しみです。

§ おわりに

当園は都心の動物園のため、周囲の環境は決して良いとは言えませんが、2回目の出産で成育に成功するとは考えてもみませんでした。母親のユキコの仔グマに対する愛情の深さが成功の原因と私達自身、ユキコに感謝の気持ちでいっぱいです。これからもユキオとユキコに頑張ってもらい、繁殖に成功していきたいと思っています。

(飼育課：浅田保夫 土谷正道)

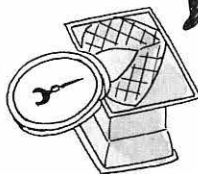
ケンちゃんの好むやねん動物園 まんが 松葉健



天王寺動物園に住んでいる動物たちも他の動物園へいたり、業者に引取られて他の飼育施設へ回されることがあるそうです。

イシシなどはアミで捕えるのですが、大きなツノをもつバーバリシープの時はマスイ缶でねむらせてから、5人がかりでほこび出しオリ(木箱)に入れます。

君羊れの仲間たちは何事かと不安そうにじーとみつめていました。

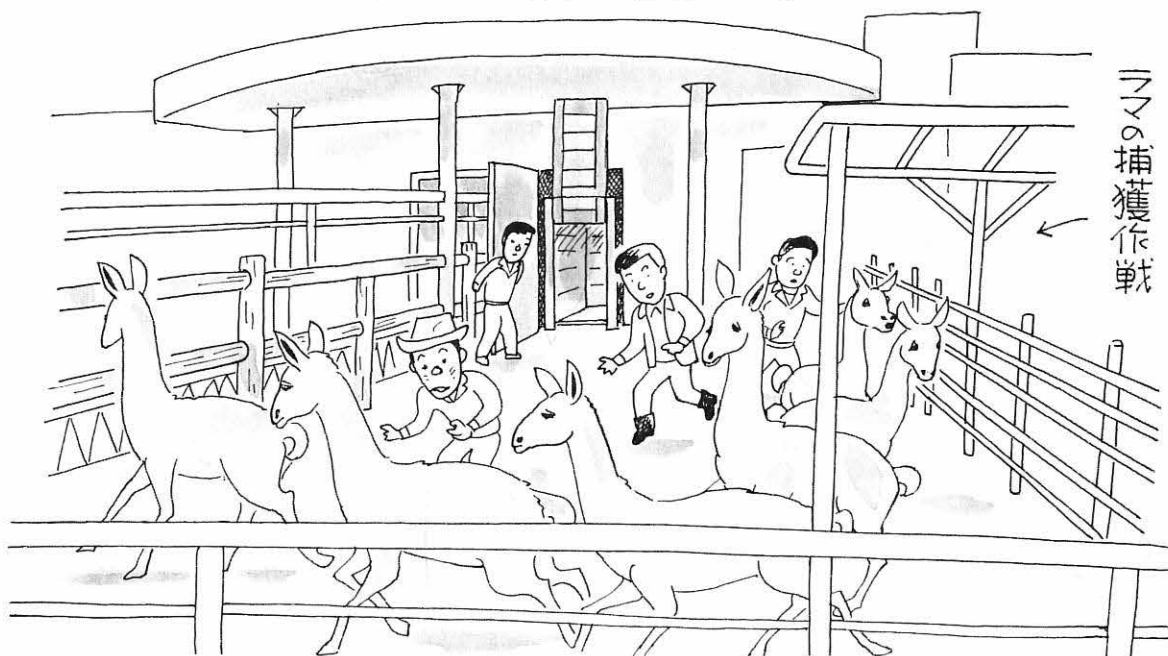


運搬用のオリに入れる前に、体重を計ります。80kgから100kgをこえる大きいものもあります。

車動物にもある動物のたなや

マスイがきいているうちに健康診断の血液をとる獣医さん

その日は休園日でした。シーンと静かな園内でしたが、捕まえられるとれ出される動物舎は、なんとなく、ケンちゃん感がありました。最後はラクダの隣にいるラマをオリに入れる作業です。寝室へ通じるドアのところ、オリをセトして追い込むわけですが、必死で逃げるラマ。6人の取組さんが追う。ベテランが素手でつかまえるオリの近くへ押しこんでいく。映画みたいで迫力がありました。動物園の休日にはこんなこともあるのです。ケンちゃんの初経験でした。



ラマの捕獲作戦

動物園ニュース

§ ホッキョクグマ一般公開始まる

昨年、11月16日に生まれたホッキョクグマの赤ちゃんは順調に成長し、待ちに待った一般公開が3月11日に行なわれました。

午前9時30分、多くの新聞社やテレビ局のカメラマンが待ちかまえるなか、ホッキョクグマ舎の寝室の扉が開けられました。初めて外に出た子グマは鳴き声をあげ、不安気に母親につきまとい、すぐに母親の胸にとびこんで、母乳を飲んでほほえましい姿が見られました。(3ページ、グラフ参照)

かわいい親子の姿はたいへん人気を集め、連日ホッキョクグマ舎の前は人だかりができています。当分の間は午前11時から午後4時までの予定で母子を展示しています。



ホッキョクグマのテレフォンカード

ホッキョクグマの誕生を記念してキャンペーンを実施しました。愛称を一般公募し、動物写真家の内山辰氏の撮影による写真を使用したポスターとテレフォンカードを制作し、園内の売店で販売しています。また、NTT堺電報電話局のご協力で、子供の鳴き声のテレフォンサービスも行いました。

§ シシオザルの誕生

3月19日にシシオザルが1頭生まれました。シシオザルはインド西部の森林に生息するサルで、野生では非常に減少し400頭前後が生息しているだけといわれており、絶滅が心配されています。

世界中の動物園で飼われているシシオザルはわずか(1985年末現在)、431頭しかなく、動物園で繁殖数を増やすことが急務とされている動物の一つにあげられています。

当園では13歳のオス「エド」と22歳になるその母親のメス「キャッシー」の2頭のみで繁殖が望めなかったため、昨年3月30日にひらかたパークから若いメス「ノエル」を借り受け繁殖計画を進めてきたものです。「ノエル」は昭和58年2月17日生まれ

で、来園直後の5月14日にオスの子供を流産しており、その後の繁殖が待たれていました。「ノエル」はまだ育児の経験がないため、うまく子育てができるか心配されましたが、出産直後は少々ごちなかつた子供の抱き方もすぐに慣れ上手に子育てをしています。生後5日目の3月24日から一般公開しました。

.....*.....

現在の飼育動物数
(昭和63年3月31日現在)

哺乳類	13目	104種	435点
鳥類	20目	200種	609点
爬虫類	13目	35種	90点
合計	36目	339種	1,134点

§ 出産動物あれこれ

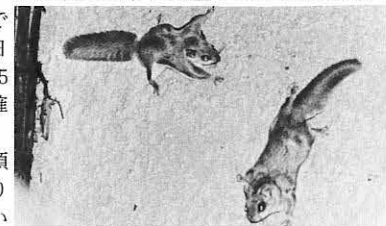
3月に入り本格的な出産シーズンが到来しました。3月4日にブラックバックのオスが1頭生まれました。当園でのブラックバックの出産は昭和60年の11月以来ひさしぶりのことです。カモシカ園でかわいい姿をご覧いただくことができます。

バーバリシープが3月18日に3頭、22日に2頭生まれましたが、いずれも雨と寒さの悪天候のため衰弱し起立できず、ほとんどが一日以内に死亡してしまいました。24日にもメス1頭が生まれ、こちらは親のもとで元気に育っています。さすがバーバリシープの赤ちゃん険しい岩山を元気に降り降りしています。



バーバリシープ

夜行性動物舎でタイリクモモンガが生まれました。タイリクモモンガは巣穴の中で出産するため正確な出生日は不明ですが、3月22日に1頭目が、25日に2頭目が確認されました。



タイリクモモンガ

確認された2頭の子供は親よりわずかに小さいぐらいにまで成長していました。タイリクモモンガの出産は当園では初めての事です。

§ キーウイ来園決まる

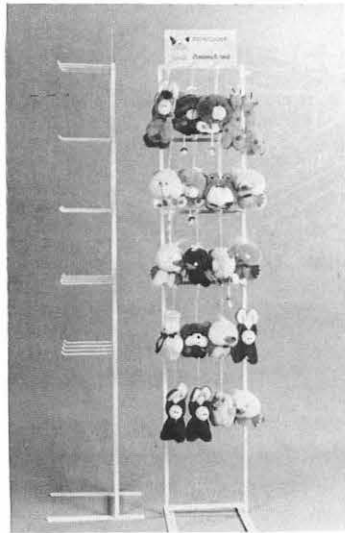
待望のキーウイのメスの来園が決定しました。当園ではニュージーランドから昭和45年にオス、メス各1羽、昭和57年にオス2羽、メス1羽が来園しましたが、いずれもメスが死亡し、現在オス3羽を飼育しているだけです。そこでかねてからニュージーランドのオトロハンガ動物学協会にメスの寄贈を求めていたところ、このたびメス1羽の来園が決定しました。来園するメスは1986年3月生まれで、7月頃に来園する予定です。今回は展示せず現在飼育しているオス1羽とペアを組ませ、繁殖用のキーウイ舎で飼育し繁殖をはかりたいと考えています。

● お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
- 5月15日(日) 新しいヒョウ舎のできるまで
- 6月19日(日) 動物渡来物語
- 時間：午後1時～2時
- 於：北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。7月までの休園日は下記のとおりです。
5月16日(月)、6月20日(月)、7月18日(月)、
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

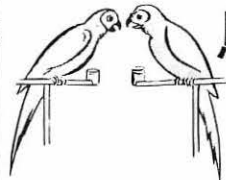


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

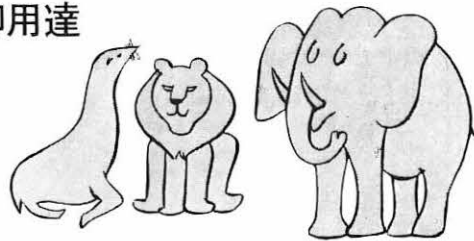
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06)704-8580
FAX: (06)704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

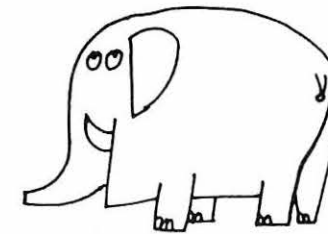
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



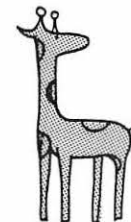
南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は...

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

もっとおいしく もっと元気に!... 雪印



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ



雪印 ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにもピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

- お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和63年5月10日発行(毎月1回10日発行) 第24巻 第5号 (通巻273号)

編集/大阪市天王寺動物園 〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗 電話 大阪 (06) 771-0201
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 37823
 編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/斎田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)
 (森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/薮野幸司/堀 弘/大川光雄/新出悦央/土谷正道)